

**公益財団法人千里文化財団**  
**令和4年度事業計画及び収支予算書**  
(2022年4月1日～2023年3月31日)

※新型コロナウイルスの影響により開催内容等を変更する場合があります。

令和4(2022)年  
公益財団法人千里文化財団

2022年度事業計画書 (2022年4月1日～ 2023年3月31日)

当財団の目的は、「文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献する」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、文化振興や次世代育成等含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2021 年度も、前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、4 月 25 日から 6 月 23 日まで臨時休館がおこなわれ、約 2 ヶ月間の館内のショップ事業と展示案内学習支援業務が中止となった。そのため、ショップ事業職員、友の会事業等職員について一部休業を実施し雇用調整助成金を申請した。展示案内学習支援業務の常勤職員については資料整理等の業務に振り替え、臨時職員(非常勤)については、業務中止(休業)とせざるをえなかった。休業対象となった臨時職員には休業手当を支給し、雇用調整助成金の申請をおこなった。再開以降も入館者数が伸び悩み、年始以降の変異型の感染拡大の状況のもと、維持会員の登録数減少が継続し、厳しく先行きが見通せない状況となっている。

当財団は、予定通り昨年(2021 年)の 4 月 1 日に内閣府の認定を受け、寄付金優遇税制の対象となる「特定公益増進法人」に該当する「公益財団法人」へ移行し、さらに 9 月 10 日より税額控除の対象法人となった。このことにより主な収入の柱である「国立民族学博物館友の会」の維持会員及び正会員の会費は寄附金同様に税制優遇の対象となり、会員増強及び寄附受け入れの体制を整えることができた。2022 年度は新体制の下、実施事業の見直しとともに、会員増強のための広報活動の充実・強化をおこなう。具体的には、巡回展を4会場で実施予定となっているため、他の文化施設との連携事業を通して広報活動を推進する。

定款で定められている事業 (第4条)

- (1) 文化人類学・民族学等に関する普及事業
- (2) 国立民族学博物館及び各種機関の活動に対する支援及び利用促進事業
- (3) 文化に関する各種事業の企画・運営及び各地域の文化振興に対する協力事業
- (4) 第1号から第3号にかかわる各種調査・研究の推進事業
- (5) この法人の目的にふさわしい諸活動に対する協力事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2022 年度の重点的な取り組み

- (1) 会員増強に向けた広報及びサービス事業の拡充
- (2) 文化多様性の視点で SDGs を考察する事業

1. 文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に、文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータ整備と活用支援 (受託事業)  
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データ作成、及び利活用 (原資料の保存、原資料のデジタル画像化によるデジタルアーカイブズの構築、閲覧、展示ほか) の支援をおこなう。
- 2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行  
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号 (180号～183号) の編集、発行、広報普及活動  
※ 172号より、普及活動として書店での取扱いを促進するため取次会社を通して全国の書店に配本  
別紙1: 2022年度『季刊民族学』企画内容 (案)
- 3) 国立民族学博物館、及び文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会等の企画・運営  
別紙2: 2022年度 講演会等企画内容 (案)
- 4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力

## 2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業
  - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等国立民族学博物館の刊行物の頒布
  - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
  - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売  
スタンプ、クリアファイル、Tシャツ、クッキー、トートバッグ、ステッカー、鉛筆、ノートブック、展示品のレプリカ、カレンダー、ポストカード、レターセット等
  - ④ 現地産民族資料及び文化人類学・民族学関連図書の販売
- 3) 国立民族学博物館の普及事業
  - ① 「国立民族学博物館友の会」の運営、及び会員の増強  
国立民族学博物館ならびに文化人類学・民族学の普及を目的とし、千里文化財団が国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促す。  
2022年度の取り組み  
会員種別毎に広報内容と対象を絞り、会員増強を目指す。  
→ 入会キャンペーンの実施 ※実施時期は新型コロナウイルス感染症の状況により調整  
→ オンラインレクチャー等催し（サービス）の充実  
→ 万博記念公園関連施設との連携
  - ② 「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行（年6回発行）
  - ③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営
  - ④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務（受託事業）
  - ⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び頒布
- 4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業
  - ① 展示案内学習支援等業務を受託し実施する。（受託事業）  
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
  - ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施する。（受託事業）  
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務
  - ③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施する。（受託事業）  
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
  - ④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）
- 5) その他 国立民族学博物館活動に協力する事業
  - ① 国立民族学博物館 特別展「邂逅する写真たち—モンゴルの100年前と今」（3月17日～5月31日）、特別展「Homo loquens しゃべるヒト — ことばの不思議を科学する」（9月1日～11月23日）、及び企画展等各種催しに対する協力
  - ② 研究普及活動に対する協力

### 3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

- 1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究
  - ① 出前授業プログラム開発及び普及
  - ② 各地の博物館等を活用する巡回展や展覧会：※別紙3参照
    - 高知県立歴史民俗資料館 巡回展「驚異と怪異」【開催期間：2022年4月～6月〈予定〉】
    - 石川県七尾美術館 巡回展「ビーズ」 【開催期間：2022年8月～9月〈予定〉】
    - 渋谷区立松濤美術館 巡回展「ビーズ」 【開催期間：2022年12月～2023年1月〈予定〉】
    - 福岡市博物館 巡回展「驚異と怪異」【開催期間：2023年3月～5月〈予定〉】
- 2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究
  - ① 指定管理者制度に基づく博物館運営に関する調査研究
  - ② 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究
- 3) 各地の博物館展示案内等の編集業務
  - ① 『北海道博物館 展示案内』（日本生命財団より受託。2023年2月納品予定）
  - ② 『徳島県立博物館 展示案内』（日本生命財団より受託。2024年2月納品予定）

### 4. 地域活性化・文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力する。

- 1) 日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業  
2025年大阪・関西万博にむけたシンポジウム等を開催する。  
実施内容：日本万国博覧会記念公園シンポジウムは、2021年度から万博開催年である2025年度まで毎年開催する予定であり、今年度（2022年度）はその2回目にあたる。  
第1回は、「人類・いのち・万博：1970から2025に向けて」と題して、2021年11月23日に開催した。  
第2回のテーマは「新型コロナウイルスに対処する文化の免疫系（仮）」を予定。「いのち」をおびやかす感染症の問題をとりあげ、それに対処する「文化の免疫系」について議論する。
- 2) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運営業務（松下幸之助記念財団より受託）  
第31回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。  
「松下幸之助花の万博記念賞」：花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。  
5月：第1回委員会、9月：第2回委員会、10月：第3回委員会、2月：授賞式
- 3) 各種学会支援業務
  - ① 日本展示学会の事務業務（下記の事務局運営を含む）  
「日本展示学会」の事務局業務を受託し実施する。  
「日本展示学会」：展示に関する研究を技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。1982年に、国立民族学博物館において設立  
5月：監査、6月：総会、11月：学会誌発送、1月：展示論講座、  
3月：学会誌発送 ※研究大会は日程未定※オンライン開催
  - ② 文化財保存修復学会 学会大会の開催運営業務  
第44回学会大会開催準備、当日運営等

4) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌。

第158号～第161号の4号の編集を受託し発行する。

※ 2022年より会費等を改定（50,000円→改定後56,000円）

5) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力  
長野県内の文化施設での講演会等の開催協力

■ 令和4(2022)年度収支予算

2022年度収支計算書(正味財産増減計算ベース)

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位:円)

	予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,000	3,000	△2,000
基本財産受取利息	1,000	3,000	△2,000
受取会費	34,200,000	36,900,000	△2,700,000
維持会員	11,000,000	12,000,000	△1,000,000
正会員	19,500,000	21,000,000	△1,500,000
家族会員	100,000	100,000	0
キャンパスメンバーズ	2,150,000	2,150,000	0
ミュージアム会員	1,000,000	1,200,000	△200,000
フリーパス会員	450,000	450,000	0
事業収益	234,78,000	242,096,000	△7,298,000
事業収益	40,500,000	45,950,000	△5,450,000
受託事業収益	193,298,000	195,146,000	△1,848,000
広告収益	1,000,000	1,000,000	0
受取補助金等	1,000,000	1,000,000	0
受取助成金	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	270,000,000	280,000,000	△10,000,000
(2) 経常費用			
事業費	248,630,000	254,662,000	△6,032,000
給料手当	121,500,000	121,500,000	0
臨時雇賃金	23,000,000	29,000,000	△6,000,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
法定福利費	18,500,000	21,200,000	△2,700,000
福利厚生費	500,000	500,000	0
旅費交通費	5,600,000	4,900,000	700,000
通信運搬費	14,000,000	8,200,000	5,800,000
減価償却費	180,000	180,000	0
事務委託料	100,000	100,000	0
印刷製本費	13,500,000	11,200,000	2,300,000
諸謝金	600,000	1,300,000	△700,000
会議費	500,000	1,000,000	△500,000
光熱水費	400,000	400,000	0
消耗品費	600,000	1,300,000	△700,000
負担金	16,900,000	17,232,000	△332,000
原稿写真委託報酬	2,200,000	2,200,000	0

(単位：円)

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
支払手数料	700,000	550,000	150,000
賃借料	3,600,000	3,600,000	0
修繕費	50,000	50,000	0
著作権等使用料	50,000	50,000	0
教材等制作購入費	24,000,000	27,800,000	△ 3,800,000
教材出版物等棚卸差額	1,000,000	1,200,000	△ 200,000
館内サービス関係費	150,000	200,000	△ 50,000
管理費	<b>20,780,000</b>	<b>24,430,000</b>	<b>△ 3,650,000</b>
給料手当	11,000,000	14,100,000	△ 3,100,000
臨時雇賃金	100,000	100,000	0
退職給付引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0
法定福利費	1,450,000	2,000,000	△ 550,000
福利厚生費	100,000	100,000	0
旅費交通費	100,000	150,000	△ 50,000
通信運搬費	650,000	650,000	0
減価償却費	30,000	30,000	0
印刷製本費	150,000	200,000	△ 50,000
諸謝金	3,400,000	3,400,000	0
会議費	50,000	50,000	0
光熱水費	120,000	120,000	0
消耗品費	660,000	660,000	0
負担金	300,000	300,000	0
原稿写真委託報酬	250,000	250,000	0
支払手数料	120,000	120,000	0
賃借料	1,150,000	1,150,000	0
修繕費	150,000	50,000	100,000
経常費用計	<b>269,410,000</b>	<b>279,092,000</b>	<b>△ 9,682,000</b>
当期経常増減額	<b>590,000</b>	<b>908,000</b>	<b>△ 318,000</b>
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	<b>590,000</b>	<b>908,000</b>	<b>△ 318,000</b>
一般正味財産期首残高	<b>79,687,709</b>	<b>79,687,709</b>	0
一般正味財産期末残高	<b>80,277,709</b>	<b>80,595,709</b>	<b>△ 318,000</b>
Ⅱ 正味財産期末残高	<b>80,277,709</b>	<b>80,595,709</b>	<b>△ 318,000</b>

## 収支予算の事業別区分経理の内訳表

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	1,000	1,000
基本財産受取利息	0	1,000	1,000
受取会費	3,600,000	30,600,000	34,200,000
維持会員	0	11,000,000	11,000,000
正会員	0	19,500,000	19,500,000
家族会員	0	100,000	100,000
キャンパスメンバーズ	2,150,000	0	2,150,000
ミュージアム会員	1,000,000	0	1,000,000
フリーパス会員	450,000	0	450,000
事業収益	234,798,000	0	234,798,000
事業収益	40,500,000	0	40,500,000
受託事業収益	193,298,000	0	193,298,000
広告収益	1,000,000	0	1,000,000
受取補助金等	1,000,000	0	1,000,000
受取助成金	1,000,000	0	1,000,000
雑収益	0	1,000	1,000
受取利息	0	1,000	1,000
経常収益計	239,398,000	30,602,000	270,000,000
(2) 経常費用			
事業費	248,630,000	0	248,630,000
給料手当	121,500,000	0	121,500,000
臨時雇賃金	23,000,000	0	23,000,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
法定福利費	18,500,000	0	18,500,000
福利厚生費	500,000	0	500,000
旅費交通費	5,600,000	0	5,600,000
通信運搬費	14,000,000	0	14,000,000
減価償却費	180,000	0	180,000
事務委託料	100,000	0	100,000
印刷製本費	13,500,000	0	13,500,000
諸謝金	600,000	0	600,000
会議費	500,000	0	500,000
光熱水費	400,000	0	400,000
消耗品費	600,000	0	600,000
負担金	16,900,000	0	16,900,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
原稿写真委託報酬	2,200,000	0	2,200,000
支払手数料	700,000	0	700,000
賃借料	3,600,000	0	3,600,000
修繕費	50,000	0	50,000
著作権等使用料	50,000	0	50,000
教材等制作購入費	24,000,000	0	24,000,000
教材出版物等棚卸差額	1,000,000	0	1,000,000
館内サービス関係費	150,000	0	150,000
管理費		<b>20,780,000</b>	<b>20,780,000</b>
給料手当		11,000,000	11,000,000
臨時雇賃金		100,000	100,000
退職給付引当金繰入額		1,000,000	1,000,000
法定福利費		1,450,000	1,450,000
福利厚生費		100,000	100,000
旅費交通費		100,000	100,000
通信運搬費		650,000	650,000
減価償却費		30,000	30,000
印刷製本費		150,000	150,000
諸謝金		3,400,000	3,400,000
会議費		50,000	50,000
光熱水費		120,000	120,000
消耗品費		660,000	660,000
負担金		300,000	300,000
原稿写真委託報酬		250,000	250,000
支払手数料		120,000	120,000
賃借料		1,150,000	1,150,000
修繕費		150,000	150,000
経常費用計	<b>248,630,000</b>	<b>20,780,000</b>	<b>269,410,000</b>
当期経常増減額	<b>△ 9,232,000</b>	<b>9,822,000</b>	<b>590,000</b>
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	<b>△ 9,232,000</b>	<b>9,822,000</b>	<b>590,000</b>
一般正味財産期首残高			<b>79,687,709</b>
一般正味財産期末残高			<b>80,277,709</b>
II 正味財産期末残高			<b>80,277,709</b>

## 2022年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

180号（4月30日発行予定）

## 1. 特集「嗜好品—つくる・映える・やみつきになる（仮）」

〈特集のねらい〉

日本文化人類学会課題研究懇談会「嗜好品の文化人類学」をベースに、各社会で嗜好品がどのように消費されているのかを、他の嗜好品との関係、消費される場との関係、脱領域化、贈与慣行、象徴性、嗜好の広がりと併せて論じる。また、コラムではカフェイン飲料でありながら見落とされがちなエナジードリンクと、嗜好品とは紙一重の存在であるドラッグについて、異なる国を対比させて紹介する。世界各地の異文化紹介に終わらず、身の回りにある嗜好品と比較することで、嗜好品を再考する。

〈特集構成〉

- ・大坪 玲子（東京外国語大学）はじめに
- ・小栗 宏太（東京外国語大学博士後期課程）香港のミルクティー
- ・藤田 周（東京大学大学院）チチャ・デ・ホラ（発芽とうもろこしの発泡酒）
- ・澤井 充生（東京都立大学）日本の水タバコ
- ・金子 修也（東京都立大学）日本のエナジードリンク
- ・阿由葉 大生（東京大学）インドネシアのエナジードリンク
- ・川瀬 由高（江戸川大学）中国の粽
- ・佐本 英規（筑波大学）ソロモン諸島の音楽、檳榔、タバコ
- ・山崎 寿美子（愛国学園大学）カンボジアのパデーク（魚の発酵食品）
- ・大石 高典（東京外国語大学）カメルーンのタバコ、マリファナ
- ・難波 美芸（鹿児島大学）ラオスの大麻
- ・二文字屋 脩（愛知淑徳大学）タイのヤーバー（覚醒剤）

## 2. 誌上再録：日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021

「人類・いのち・万博：1970から2025に向けて」

中牧 弘允、吉田 憲司、西尾 章治郎、ウスビ・サコ、山極 壽一、井上 章一

## 3. 連載：「モノから見た宗教の世界」第8回 丹羽 朋子（国際ファッション専門職大学）

## 4. 索引 ※10号毎

181号（7月31日発行予定）

## 1. 特集：「沖縄と出会う（仮）」

〈特集のねらい〉

1972年の「沖縄返還」から50年。沖縄と日本、沖縄と世界との複雑な関係と、そこから生まれた重層的な文化を多角的に見つめ直す。トピックとしては、音楽・芸能、米軍基地問題、本土から見た「沖縄イメージ」の変遷、「辺境の地」としての沖縄、沖縄から世界各地への移民、沖縄弁（うちなあぐち）、現代のユタなどを取りあげる。

〈執筆依頼候補〉

岸政彦、田中雅一、寺田吉孝、笹原亮二 など

## 2. 連載「モノから見た宗教の世界」第9回 中川 千草（龍谷大学）

## 3. 誌上再録

みんぱくゼミナール「焼畑は環境破壊か—佐々木高明の研究とその後」

佐藤 廉也、米家 泰作、池谷 和信

182号 (10月31日発行予定)

1. 特集：「民藝（仮）」  
〈特集のねらい〉  
柳宗悦らが民藝運動を始めてから約100年。昨今大規模な「民藝」回顧展が開催され、関連書籍の出版も相次ぐなど、再ブームの様相を呈している。柳と同時期に同じ「民衆」から生まれる文化を対象とした柳田國男や渋沢敬三らの活動との比較を踏まえつつ、民藝運動展開の時代的背景を検証し、その思想と実践を今日的な視点から再考する。また、現在「民藝」と呼ばれるモノやその生産者・消費者のあり方を通して、「民藝」概念の変遷や、現代人の眼になお「民藝」が魅力的に映る理由について考える。
2. 記事：神野知恵「韓国の農楽（仮）」
3. 連載：「モノから見た宗教の世界」第10回 長嶺 亮子（沖縄県立芸術大学）
4. 誌上再録：みんなく映画会「日本の焼畑を考える」野本 寛一、川野 和昭、池谷 和信

183号 (2023年1月31日発行予定)

1. 特集：「高地文明（仮）」  
〈特集のねらい〉  
山本紀夫『高地文明—「もう一つの四大文明」の発見』を下敷きに、大河のほとりで発展したいわゆる「四大文明」以外にも、独自の文化が花開き、現代にまで大きな影響を与えた文明として、アンデス、メキシコ、チベット、エチオピアの四つの熱帯高地の文明を紹介する。建築物から、栽培技術、家畜飼育の技術、宗教に至るまで、知られざる文明の全貌を解き明かす。  
〈執筆依頼候補〉  
稲村哲也、木村友美、重田眞義など
2. 連載：「フィールドワーカーの布語り、モノがたり（仮）」第1回 中谷 文美（岡山大学）  
〈連載趣旨〉  
アジア各地を中心に、さまざまな染織品の制作現場に長年かかわってきたフィールドワーカーが、様々な技法による布の作り方、売り方、使い方の現状と変化に迫る。
3. 誌上再録：友の会講演会「佐々木高明を語る研究とその人物像」 ヨーゼフ・クライナー、宇野文男

## 2022 年度「国立民族学博物館友の会」講演会等 企画内容 (案)

## 1) 国立民族学博物館友の会講演会

新型コロナウイルスの感染予防のための博物館活動の方針に基づき、昨年度は一部開催を見合わせるとともに、オンライン中継を併用しながらの開催となった。2022 年度についても、博物館活動の方針により開催方法（オンライン中継のみ、オンライン中継併用等）を調整する。

## ●大阪

【会場：国立民族学博物館】通算回数（開催日）：「演題」 / 講師（所属）

開催日時：毎月第 1 土曜日、13:30 ~ 14:40

（講演終了後の見学会もしくは懇談会は当面の間、実施を見送る。講師了承時、オンライン中継を併用。）

第 523 回 4 月 2 日（土）

[日本・モンゴル外交関係樹立 50 周年記念特別展「邂逅する写真たち—モンゴルの 100 年前と今」関連]

「モンゴルと SDGs」山極壽一（総合地球環境学研究所所長）、小長谷有紀（民博客員教授、日本学術振興会監事）

第 524 回 5 月 7 日（土）

[企画展「焼畑—佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」関連]

「佐々木高明を語る—研究とその人物像」

ヨーゼフ・クライナー（ボン大学名誉教授）、宇野文男（元福井大学教授）、池谷和信（民博教授）

第 525 回 6 月 5 日（土）

※調整中

第 526 回 7 月 3 日（土）

テーマ：アボリジニの「酒狩り」（仮） 平野智佳子（民博助教）

第 527 回 8 月 7 日（土）

テーマ：みんなの資料から日系移民の足跡をさぐる（仮） 丹羽典生（民博准教授）

第 528 回 9 月 4 日（土）

[特別展「しゃべるヒト—ことばの不思議を科学する」関連]

※テーマ調整中 話者：吉岡 乾（民博准教授）

第 529 回 10 月 1 日（土）

※テーマ調整中 話者：中川 理（民博准教授）

第 530 回 11 月 5 日（土）

[企画展「海の暮らしアート展—モノから見る東南アジアとオセアニア（仮）」関連]

※話者調整中 話者候補：須藤健一（堺市博物館館長、民博名誉教授）

第 531 回 12 月 3 日（土）

※調整中

第 532 回 2023 年 1 月 7 日（土）

※調整中

第 533 回 2023 年 2 月 4 日（土）

※調整中

第 534 回 2022 年 3 月 4 日（土）

※調整中

## ●東京

【会場：東京他】通算回数（開催日）：講師（所属） / 「演題」

開催日時：不定期、13：30～14：40（見学会もしくは懇談会は当面の間、実施を見送る。）

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、3回程度実施したい。

第130回 2022年8月頃

※調整中

第131回 [企画展「海の暮らしアート展—モノから見る東南アジアとオセアニア（仮）」関連]

※テーマ調整中 話者：小野林太郎（民博准教授）

第132回 2023年2月頃

※調整中

## 2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

開催日時：土曜日 14：50～15：30、国立民族学博物館展示場で開催

通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師（所属）

※ 新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまで当面の間、実施を見送る。

## 3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、コンパクトな企画を2回程度実施したい。

## 【企画候補（第83回、第84回）】

- ・ 人間文化研究機構の研究拠点を見学する（日帰り）。
- ・ 関西の文化施設を見学する（日帰り）。
- ・ オンライン連続講座。

## 4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、収束傾向が見込めれば下半期に開催。

## 【企画候補（第96回）】

テーマ：メキシコのアルテ・ポプラル（仮）

みんぱくの2019年秋季企画展「アルテ・ポプラル——メキシコの造形表現のいま」で紹介された資料を収集した工房を中心に見学する。メキシコの造形表現とともに、信仰、食文化等にも理解を深める。

時期：2023年2月中旬から3月中旬の10日程度

同行講師：鈴木 紀（民博教授）

訪問先：メキシコ（中米）

5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

※ 新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまで当面の間、開催を見送る。

6) オンラインレクチャー ※2020 年度よりスタート

来館が難しい既存の会員へのサービスの提供とともに、友の会への新規入会を促進するため、Youtube みんぱく友の会チャンネルへより広範な情報提供を主とした 15 分程度の動画（レクチャー）を、年に 3 回程度公開する。

□2022 年度のテーマ：執筆者による季刊民族学解説、収集者による収蔵品解説

□公開日：① 7 月頃、②10 月頃、③1 月頃を予定

7) 外部広報事業

【企画候補】

阪急生活楽校 × 国立民族学博物館

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、文化人類学の知見を生かした親しみやすいテーマで講演会を実施する。

※ 新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまで当面の間、開催を見送る。

□開催場所：うめだ阪急ホール（阪急百貨店 9 階）

□主催：千里文化財団、阪急うめだ本店

□特別協力：国立民族学博物館

## 国立民族学博物館 巡回展「驚異と怪異—世界の幻獣と霊獣たち」展 開催概要（案）

1. 名 称：特別展「驚異と怪異—世界の幻獣と霊獣たち」（仮）
2. 概 要：近世以前、ヨーロッパや中東においては、人魚や一角獣といったふしぎだが実在するかもしれない生物や現象は「驚異」として自然誌の知識の一部とされてきた。また、東アジアにおいては、奇怪な現象や異様な生物の説明として「怪異」という概念が作りあげられてきた。本展示では、常識や慣習から逸脱した「異」なるもの（異境・異人・異類）をめぐる人間の心理と想像力の働き、言説と視覚表象物の関係を解明するとともに、人間の想像力と環境の相関関係を究明する。  
本展は、令和元年に国立民族学博物館で開催された特別展「驚異と怪異」の一部を巡回するもので国立民族学博物館の民族資料を中心に、高知県内や中四国の資料を加え、世界と日本の想像された生きものに関する民族（民俗）資料を展示する。そのことによって、人間の想像力や世界の多様で豊かな文化にふれ、高知の文化を振り返る機会とする。
3. 主 催：高知県立歴史民俗資料館 国立民族学博物館 千里文化財団
4. 後 援：高知県教育委員会 高知新聞社 NHK高知放送局 RKC高知放送 KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知
5. 開催期間：2022年4月29日（金・祝）～6月26日（日）〈予定〉
6. 開館時間：午前9時～午後5時
7. 会 場：高知県立歴史民俗資料館 高知県南国市岡豊町八幡 1099-1
8. 展示点数：350点〈予定〉
9. 観 覧 料：未定（友の会会員は会員証提示により割引予定）
10. 関連事業：
  - 講演会「幻獣・霊獣・怪獣—人はなぜモンスターを想像するのか？—」（仮）  
開 催 日：5月22日（日）  
会 場：高知県立歴史民俗資料館 2階 多目的ホール  
定 員：60名
  - 講演会「奇界／世界／想像界—けんぴXれきみん連携イベント」（仮）  
開 催 日：6月19日（日）  
会 場：高知県立歴史民俗資料館 2階 多目的ホール  
定 員：60名

## 国立民族学博物館巡回展「ビーズ」展 開催概要（案）

1. 名 称：夏期特別展「ビーズーつなぐ、かざる、みせるー」（仮）
2. 概 要：ある特定の地域の文化に焦点を当ててではなく、地球上に普遍的にみられる“ビーズ”というものをとおして、「人類とは何か」という人類学の基本課題を正面から追求すること、特に、私たち人類「ホモ・サピエンス」の文化の特質を理解することを目的として、国立民族学博物館の所蔵資料を中心に、世界における多様な素材で作られたビーズや社会的役割を担ったビーズなど、世界各地のさまざまなビーズを用いた展示をおこなう。なお、本展示では、“ビーズ”を「さまざまな個々の素材をつなげたもの」として定義し、2017年開催の国立民族学博物館 特別展「ビーズ」における展示構成を踏襲する。また、今回の巡回先となる石川県内のビーズ文化の特徴（石ビーズの産地、銀箔を使用したビーズなど）が見える内容とする。
3. 主 催：石川県七尾美術館 国立民族学博物館 千里文化財団〈予定〉
4. 後 援 等：石川県、七尾市教育委員会、報道関係（地元テレビ局、ラジオ局など）〈予定〉
5. 開催期間：2022年7月30日（土） ～ 9月11日（日）〈予定〉
6. 開館時間：午前9時～午後5時〈予定〉
7. 会 場：石川県七尾美術館 石川県七尾市小丸山台1-1
8. 展示点数：130点〈予定〉
9. 観 覧 料：未定
10. 関連事業：未定

## 国立民族学博物館巡回展「ビーズ」展 開催概要（案）

1. 名 称：特別展「ビーズーつなぐ、かざる、みせるー」（仮）
2. 概 要：ある特定の地域の文化に焦点を当ててではなく、地球上に普遍的にみられる“ビーズ”というものをとおして、「人類とは何か」という人類学の基本課題を正面から追求すること、特に、私たち人類「ホモ・サピエンス」の文化の特質を理解することを目的として、国立民族学博物館の所蔵資料を中心に、世界における多様な素材で作られたビーズや社会的役割を担ったビーズなど、世界各地のさまざまなビーズを用いた展示をおこなう。なお、本展示では、“ビーズ”を「さまざまな個々の素材をつなげたもの」として定義し、2017年開催の国立民族学博物館 特別展「ビーズ」における展示構成を踏襲する。また、今回の巡回先である大都市圏のビーズ文化の特徴（若者や富裕層のビーズ、ガラスビーズ生産地）が見える内容とする。
3. 主 催：渋谷区立松濤美術館 国立民族学博物館 千里文化財団〈予定〉
4. 後 援 等：未定
5. 開催期間：2022年11月15日（土） ～ 2023年1月15日（日）〈予定〉
6. 開館時間：午前10時～午後6時〈予定〉
7. 会 場：渋谷区立松濤美術館 東京都渋谷区松濤2丁目14-14
8. 展示点数：130点〈予定〉
9. 観 覧 料：未定
10. 関連事業：未定

**国立民族学博物館巡回展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」展 開催概要（案）**

1. 名 称：特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」（仮）
2. 概 要：近世以前、ヨーロッパや中東においては、人魚や一角獣といったふしぎだが実在するかもしれない生物や現象は「驚異」として自然誌の知識の一部とされてきた。また、東アジアにおいては、奇怪な現象や異様な生物の説明として「怪異」という概念が作りあげられてきた。本展示では、常識や慣習から逸脱した「異」なるもの（異境・異人・異類）をめぐる人間の心理と想像力の働き、言説と視覚表象物の関係を解明するとともに、人間の想像力と環境の相関関係を究明する。  
  
本展は、令和元年に国立民族学博物館で開催された特別展「驚異と怪異」の一部を巡回するもので国立民族学博物館の民族資料を中心に、独自に借用する資料や、ローカルな民俗資料も追加する。人魚、龍、怪鳥など世界と日本のさまざまな幻獣や怪物たちを紹介して、人間の想像力の面白さに迫る。
3. 主 催：福岡市博物館 TVQ 九州放送 西日本新聞社 国立民族学博物館 千里文化財団〈予定〉
4. 後 援 等：未定
5. 開催期間：2023 年 3 月 11 日（土） ～ 5 月 14 日（日）〈予定〉
6. 開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分〈予定〉
7. 会 場：福岡市博物館 福岡市早良区百道浜 3 丁目 1-1
8. 展示点数：350 点〈予定〉
9. 観 覧 料：未定
10. 関連事業：未定